



合併により図書館は、4つの図書館が共通カードで利用できるようになりました。詳しくは34ページをご覧ください。

■深谷市立図書館  
【おはなし会】  
小さいお子さんのために、昔話や絵本の読み聞かせなどを毎月行っています。ご家族でお出掛けください。  
とき 1月28日(出)午前10時30分  
ところ 深谷市立図書館3階郷土資料展示室

主催と問い合わせ 深谷市立図書館 (0571-8210) へ

■花園こども情報交流図書館 (アクロス)  
【おはなし玉手箱 (おはなし会)】  
すてきな絵本が皆さんを待っています。  
とき 毎週土曜・日曜午後3時  
ところ アクロスおはなしのへや  
対象 幼児、児童、親子  
主催と問い合わせ アクロス (0579-1333) へ

■図書館休館日 (4館共通)  
【1月】  
10日(火)・16日(月)・23日(月)・30日(月)・31日(火)  
【2月】  
6日(月)・13日(月)・20日(月)・27日(月)・28日(火)  
http://www.lib.city.fukayasaitama.jp/

ふかやガーデニング情報

Garden City Fukaya  
ガーデニングで「美しく住みよい街ふかや」を市民の手でつくろう  
——すでに多くの市民がさまざまな活動を行っています——  
あなたも、ガーデンシティふかやづくりに参加しませんか!

ガーデンシティふかや

公共施設 学校 企業  
近所の道路脇・空き地  
個人の庭  
遊休農地の活用

美しい街、ガーデンシティふかや  
ガーデンを通じたコミュニティの復活  
地域防犯への寄与  
地域で子供を育てる  
健康づくり  
ガーデニングでユニバーサルデザインの普及  
深谷市のPR (イメージアップ戦略)  
施設案内 (地域産業・異業種交流)  
新たな観光資源

ガーデニング教室  
毎月季節に合わせたさまざまなガーデニング教室を開催しています。内容は広報に掲載します。お気軽にご参加ください。

アダプト・プログラム  
道路や公園などの公共施設を市民が里親となり、一定区域の緑化・美化・清掃活動などを行い、市が支援をするものです。

ガーデニングボランティア  
公共の花壇や空き地に花を植栽したり、手入れをするボランティア活動です。市に登録するだけで、都合の良いときに参加できます。

花はなプラン  
学校を中心としたガーデニングの展開で、子ども・学校・PTA・地域が一体となって進める取り組みです。

オープンガーデン  
オープンガーデンとは、個人の庭を一般に公開し皆さんに楽しんでもらう試みで、深谷では「深谷オープンガーデン花仲間」という花を愛する人たちが行っています。毎年4月の「ふかや花フェスタ」に併せて、丹精込めた庭を無料で公開しています。

※ ガーデニングの詳しい情報は、広報と一緒に配布しましたチラシ、または、ガーデンシティふかやのホームページをご覧ください  
http://www.city.fukaya.saitama.jp/fukayahanaweb/index.htm

ガーデニング教室  
02/10(木) フラワーアレンジメント

寒い季節、心が温まるようなフラワーアレンジメントを作ってみませんか。バレンタインに送ってはいかがでしょうか?  
講師: 遠藤 優子 先生  
花の散歩道 主宰

花はな祭り  
02/15(水) ハンギングバスケット

子どもたちの健全な育成を願うひな祭り。ピンク系の花をメインに、ひな祭りにぴったりのハンギングバスケットを作ります。  
講師: 市川 久江 先生  
ハンギングバスケットマスター

このページのお問い合わせ・お申し込みは、ガーデンシティふかや推進室 (TEL551-5551) へ

とき: ① 2月10日(金) ② 2月15日(水)  
時間: 午前9時30分～11時30分  
ところ: 深谷コミュニティセンター美術工芸室  
定員: 20人 (応募者多数の場合は抽選の上、全員に結果を通知いたします)  
対象: 市内在住者  
受講料: 各回とも2,500円  
申し込み締め切り: 開催日の2週間前まで

イメージフォト

養蚕の始まりは西暦450年、今から1556年前のことであり、日本書紀に「雄略天皇が皇后に蚕を飼うようにすすめた」という記述があります。現在、歴代の皇后が引き継ぎ形になっているのは、明治4年、昭憲皇太后が吹上御苑内で復興されたのが最初です。復活するにあたり、相談を仰せつかったのが渋沢栄一でした。

明治4年、皇后陛下(昭憲皇太后)は、宮中において養蚕を始めるにあたり、養蚕に関するその道の経験のある者に聴取するようにと、皇后宮太夫に御沙汰をし、太夫は当時の政府官吏の中で、渋沢栄一を最適任者として選び、陛下に奉答しました。皇后陛下は早速栄一を召され、種々質問され、栄一がこれに奉答した結果、ここに始めて宮中御養蚕実施のこととなりました。しかし、栄一にはその実際についてお世話申し上げるだけの深い自信がなかったため、熟慮の上、親戚である群馬県佐波郡島村(現伊勢崎市島村)の郷

長 田島武平をお世話役として推薦しました。武平は直ちに奉仕者の人選に着手し、婦人四名を選定し届け出ました。御養蚕所は、宮中吹上御苑内の「瀧の御茶屋」に近い御茶室がこれに充てられました。当初、御養蚕所新築の議が出ましたが、それには及ばぬということで、御茶室で間に合わせられたという事です。

皇室の御養蚕は、昭憲皇太后から貞明皇后、香淳皇后、美智子皇后へと引き継がれ、天皇陛下の御稲作とともに、我が国の農耕文化の象徴として重要な皇室行事となつていきます。御養蚕所で収穫された繭は絹織物となり、外国訪問のときの贈答品や宮廷祭事などにも使われます。

「宮中御養蚕」の草分けの役割を果たしたのが、郷土の偉人渋沢栄一であったことに感動するとともに、郷土深谷市の誇りです。

昭和六年十一月十一日永眠。九十二歳。天皇からは御沙汰書を賜りました。(文・荻野勝正さん)

渋沢栄一物語 ①  
宮中御養蚕と渋沢栄一